会派会長：小　野　政　明　㊞　　報告者：園　山　康　男

政務調査研究視察　報告書

平成１８年５月１１日提出

視　察　日	平成１８年４月２７日（木）
視　察　先	東京都千代田区（東京消防庁）
視　察内　容	**「消防緊急通信指令システムとトリアージ導入と林野火災への対応」**
視　察　者	田口正夫、園山康男　計２名

東京都

＜消防緊急通信指令システムについて＞

説明を受ける田口・園山議員

１　東京都と東京消防庁の概要

人　口：１２５０万人
世帯数：５７７万世帯
面　積：２２００㎢

東京消防庁：都庁の内部機関で、特別区および委託された市町村の消防業務を担当する日本最大の組織である。

東京消防庁の人員は、消防総監以下１万人の職員、消防団員２６０００人の指揮も担当している。

２　視察項目の概要

岡崎市は、建設を進めている東庁舎に防災拠点の充実強化を目的として、より高度な消防緊急通信指令システムを導入する計画である。そこで、新システムの効果と課題を研究する。次に平成１８年度に総務省で検討している救急搬送にかかる優先順位（トリアージ）導入における方向性を研究する。３つ目は、森林面積が６０％となった新岡崎市の林野火災への対応を調査するものである。

（１）新システムの効果と課題

今回注目されるシステムは、音声合成装置による予告指令による時間短縮。携帯１１９番位置情報取得システムによる通報者の位置を瞬時に判明し、災害場所が特定できること。画像伝送システムは災害状況の把握ができ、的確な指示と迅速で効率的な災害活動ができる。

消防庁職員の説明

（２）トリアージに対する考え方と導入方法

消防総監から「救急業務における傷病者の緊急性に関する選別及びその導入のための環境整備はいかにあるべきか」の諮問を受け、平成１８年３月に東京消防庁救急業務懇話会より答申が示された。総務省での検討課題について、事前の調査研究となった。

（３）林野火災への対応

東京都の３６％は森林地域であり、林野火災への対応も重要な任務である。林野火災用のコンテナが各所に配備されている。平成１７年３月には、同時に３件の林野火災が発生した。ここでは、他県へ消化ヘリを要請し、合計１２機が相互応援を実施した。また後方支援部隊の検討がなされ、給食車、照明車、遠距離送水車、資材輸送車などが検討された。

東京都

〔感想・岡崎市への反映〕

最大の消防組織である東京消防庁へ新システムの効果を調査し、岡崎市への導入の有効性を確認できた。今回の視察で岡崎市消防本部は、車両の経路表示などにおいて、高度なシステムを保有していることが再確認できた。新庁舎における新システムの導入に期待が持てるところである。

救急車両に関するトリアージは、総務省での検討段階であるが、東京消防庁では細部にわたる研究が進められており参考になった。今後は住民への周知や理解が得られるかが大きな焦点となろう。岡崎市消防本部だけでなく議員団としての研究が必要と感じた。

林野火災においては消防隊の早期派遣や資機材の充実が図られている。現場への指揮隊車両の派遣は、市も検討課題である。また後方支援部隊が組織され、給食車や資材輸送車も有効な部隊である。